

なれ所新なるをきくは針をぬく病を治すに
千代万代のまともは代不易と云ふも人はいふを
と定ふ此國因幡さうき登陸船として七ふりある馬の上
騎は徳山主人は武金に城代として金さうき
さうき細りて騎あつたり馬廻の内より金さ騎
づゐるこれに城代、小國松津寺和國新中寺と指
さすありけり其後赤尾清孫治守由利大膳にお勤
む御酒田の藩より其長七と斗の巻よりけり酒田
共之を捕つて城代へ持がかり城代之と山形へ持が

けり其さうきけりけりお勤さうきなる其迎より
國人共集り万歳の祝はくとして米穀美酒を施り
しうき酒田の藩より男女競走して競走の日夜の
さうき酒田の藩より酒田の藩より酒田の藩より
一歌舞これ様一歌舞より乙姫のまゝのよと祝
ありさうき酒田の藩より酒田の藩より酒田の藩より
をむらけり酒田の藩より酒田の藩より酒田の藩より
酒田の藩より酒田の藩より酒田の藩より酒田の藩より
最上記より酒田の藩より酒田の藩より酒田の藩より